

応急手当

心臓が止まってしまうような重大な事故は、いつ、どこで、何が原因でおこるか分かりません。心臓と呼吸が止まってから時間の経過とともに救命の可能性は急激に低下しますが、救急隊を待つ間に居合わせた人が心肺蘇生などを行うと救命の可能性が2倍程度に保たれることがわかっています。日本では、119番通報があつてから救急車が現場に駆けつけるまでに平均して8分ほどかかります。事故などにあった人が心肺停止になったとき、その人を助けるためには、そばに居合わせた人が応急手当を行うことが重要となります。

心肺蘇生法

●事故などにより傷病者が心肺停止状態になった場合、現場に居合わせた人は救急車が来るまでに、速やかに心肺蘇生などを行う必要があります。

1 意識確認

●意識がなければ、助けを呼び、119番通報とAEDを要請する。



2 呼吸確認

●胸と腹部の動きを見ます。動いていなければ、心停止と判断します。



3 胸骨圧迫

●胸の真ん中に手を置く。
●肘を伸ばし、胸が少なくとも5cmしずむように圧迫する。



4 人工呼吸 (※省略可能)

●気道を確認したまま患者の鼻をつまみ、患者の口をおおい、1秒かけて息を吹き込む。
●2回行う。
●自信がない、抵抗がある場合は省略してよい。



5 心肺蘇生法

●胸骨圧迫30回、人工呼吸2回を、到着した救急隊と交代するまで繰り返す。
●人工呼吸を省略した場合は胸骨圧迫のみ繰り返す。



AEDの使い方

●心肺蘇生法の実施者は心肺蘇生法を継続し、他の人がAEDを操作しましょう。
●AEDは音声がついているので音声にしたがって操作しましょう！！

1 電源ON

※ボックスを開けると自動で電源がONになる機種もある。



2 パット装着

●心臓を挟むようにパットを貼る。
※パットに図が描いてあります。
※下記使用上の注意参照



3 心電図解析

●AEDが心電図を解析する。
●パットが装着されたら、自動で心電図を解析するので、周りの人に「離れて!」と指示を出す。
●ショックが必要かどうか注意して聞く。



4 電気ショック

●ショックが必要なとき再度「離れて」と指示し、周囲の安全を確認後、ショックボタンを押す。
●ショックが不要なとき⑤心肺蘇生法に進む。



5 心肺蘇生法再開



AEDとは???

自動体外式除細動器のこと。
ひとこと言えば、初めての人でもできる電気ショックの機器。



《使用上の注意》

- 体が濡れていたらタオルで水分を拭きとってから使用する。
- 胸部にペースメーカーや貼り薬がある場合はその部分を避けてパットを貼る。
- 小さな子供(乳児も含む)には小児用パットを使用しますが、ない場合は成人用を使用して下さい。